

第50回滋賀県政世論調査単純集計結果<速報>について

注：今回の数値は「速報値」であり、後日報告書により公表するものが確定値となります。
四捨五入の関係上各選択肢の百分率（%）の合計が100.0%にならない場合があります。

1. 調査のあらまし

調査対象：県内在住の満18歳以上の個人（選挙権年齢の引下げを受け、満18歳以上に拡大）

標本数：3,000人

調査時期：平成29年5月30日（火）～6月20日（火）

調査方法：郵送法・オンライン調査法の併用

調査項目：(1) 県政全体に関する満足度（企画調整課）

(2) 県の広報・広聴活動（広報課）

(3) 「びわ湖の日」について（環境政策課）

(4) 高齢期の生活・活動と介護について（医療福祉推進課）

2. 調査票回収結果について

有効回収数（有効回収率）：1,522人（50.7%） <H28 51.9%、1.2ポイント減>

※有効回収数（郵送+オンライン）に占めるネット回答の割合 12.5%

※回答者の属性 18～19歳が0.9%、20～34歳が14.2%、35～49歳が27.8%、

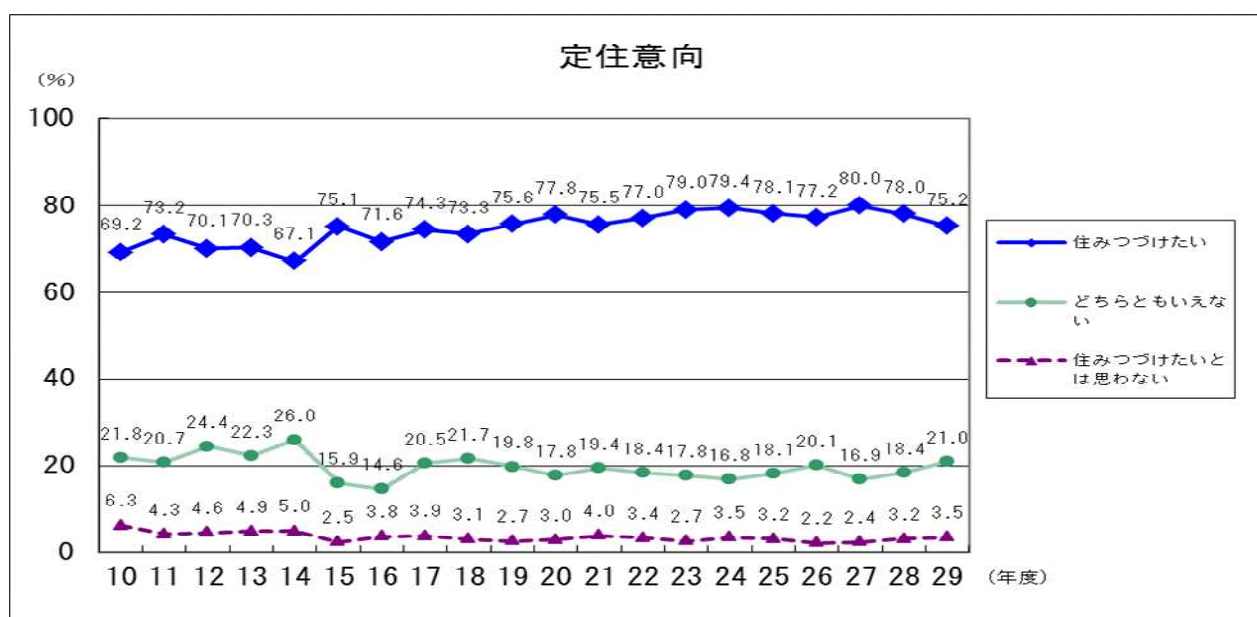
50～64歳が29.7%、65～74歳が21.5%、75歳以上が5.9%

（今年度より年齢区分を市場調査に使用される区分を基本に、より施策に反映しやすい区分に変更）

3. 主な集計結果について

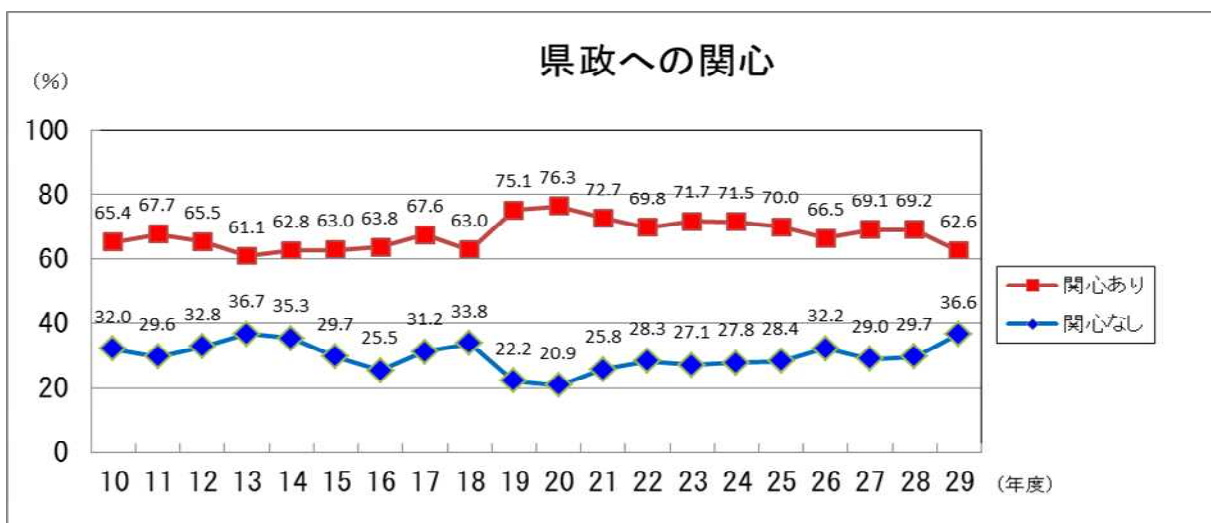
● 県政全体に関する満足度

○ 定住意向 「住みつづけたい」と答えた人の割合 75.2% <H28 78.0%、2.8ポイント減>



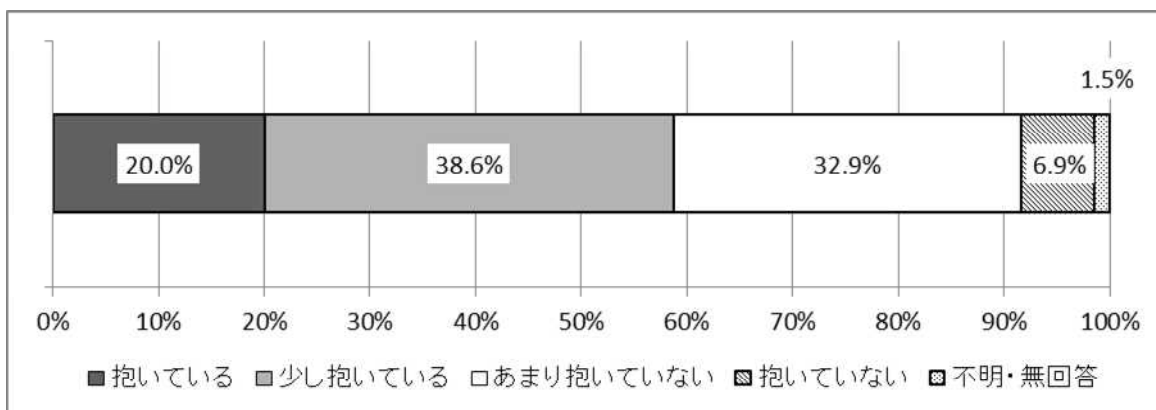
○ 県政への関心度

「関心あり」（「関心がある」と「まあまあ関心がある」の合計比率）と答えた人の割合 62.6%
 <H28 69.2%、6.6ポイント減>



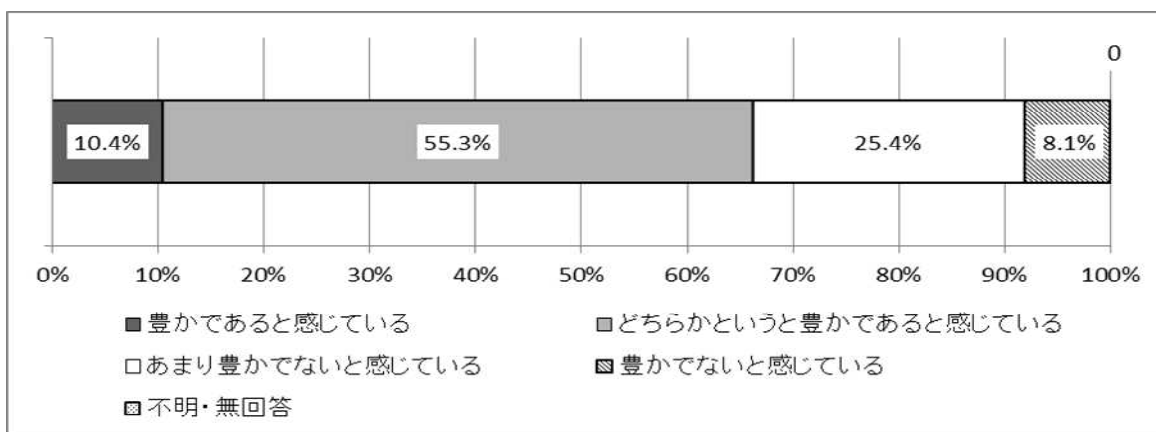
○ 将来に夢や希望を抱いているか

「抱いている」（「抱いている」と「少し抱いている」の合計比率）と答えた人の割合 58.7%
 <H28 59.7%、1.0ポイント減>



○ 「豊かさ」を実感できているか

「豊かである」（「豊かであると感じている」と「どちらかという豊かであると感じている」の合計比率）と答えた人の割合 65.7%
 <H28 61.4%、4.3ポイント増>



■県政に対する満足度について

※平成28年度調査とは選択肢の文言が異なります。

○ 満足度の高い分野（「満足」と「どちらかといえば満足」を答えた比率）

① ビワイチをはじめとする観光施策や首都圏での情報発信など滋賀の魅力の向上のための施策	30.1%
② 安全で安心して暮らすための自治会など住民が中心となった防災や防犯対策の推進	30.0%
③ 結婚・出産・子育てまでの切れ目のない支援や社会全体で子どもを安全・安心に生み育てることができる環境づくり	29.3%
④ 在来魚介類の回復や生態系の保全・再生など琵琶湖流域の保全・再生に向けた取組	28.9%
⑤ 琵琶湖の経験を活かした産学官民連携による滋賀の水環境ビジネスの推進	26.2%

(参考) H28

①身近なところで自然と触れ合える環境の整備	42.5%
②食の安全確保	37.8%
③美しい田園や緑豊かな森林の維持	34.1%
④道路や公園、下水道など社会資本の整備と計画的な保全管理	28.8%
⑤文化やスポーツを楽しめるまちづくり	27.9%

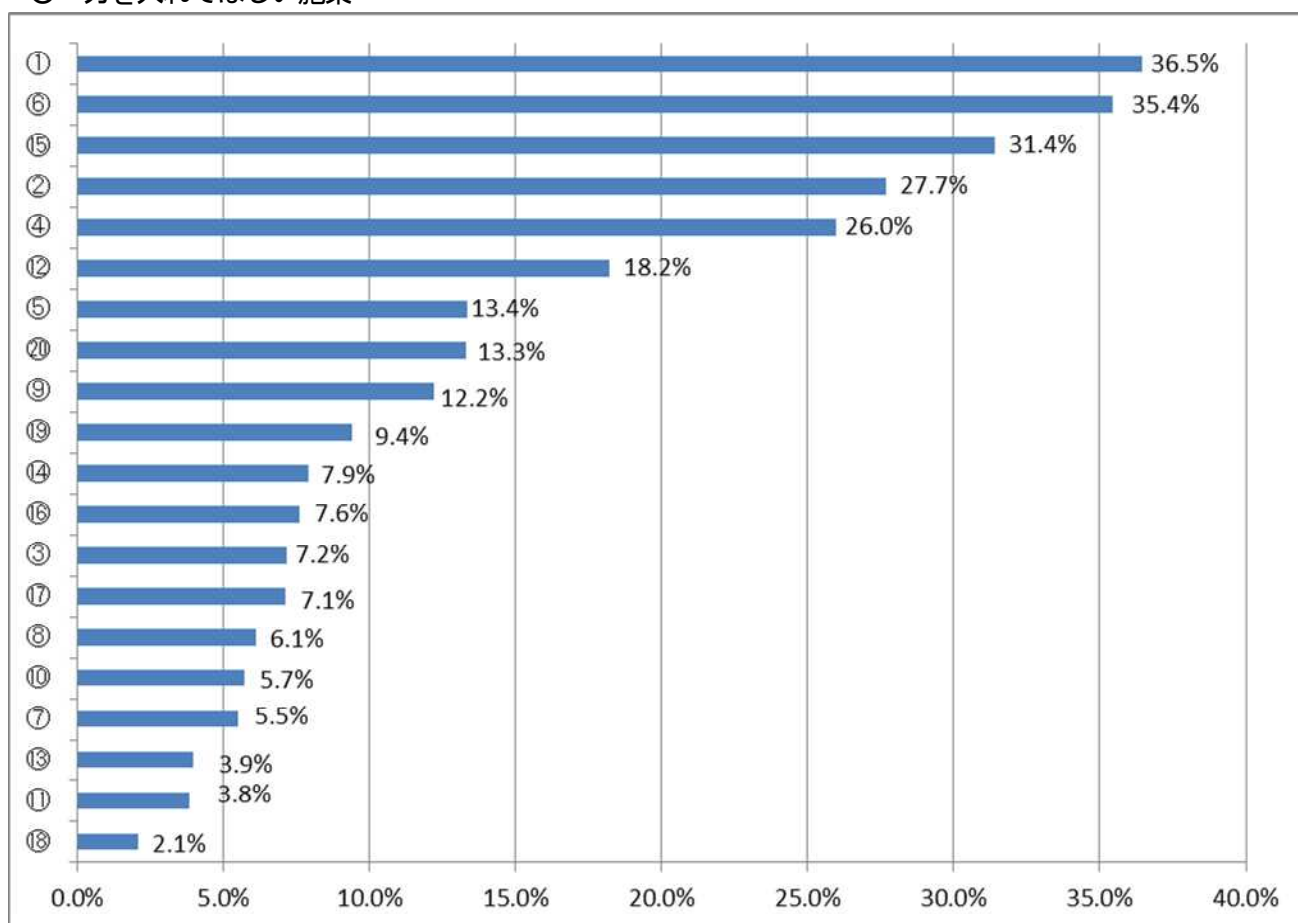
○ 不満度の高い分野（「不満」と「どちらかといえば不満」を答えた比率）

① 鉄道・バス等の利便性向上など公共交通を使いやすいまちづくり	53.9%
② 次世代の雇用につながる新たな産業の創出	33.1%
③ 若者、女性、中高年者、障害者が滋賀で働き、活躍できるための取組	32.6%
④ 地域・拠点間の連携確保や誰もが利用しやすい道路空間づくり	31.3%
⑤ 滋賀の産業を支える人材の育成や滋賀で働く優秀な人材確保の取組	30.5%

(参考) H28

①自転車歩行者道や身近な公共交通機関などの整備	50.5%
②地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全	34.1%
③人やものが行き交う広域交通ネットワークの形成	32.8%
④在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備	31.7%
⑤歴史や文化、自然などの地域資源を活かした観光の振興と滋賀のブランド力の向上	31.5%

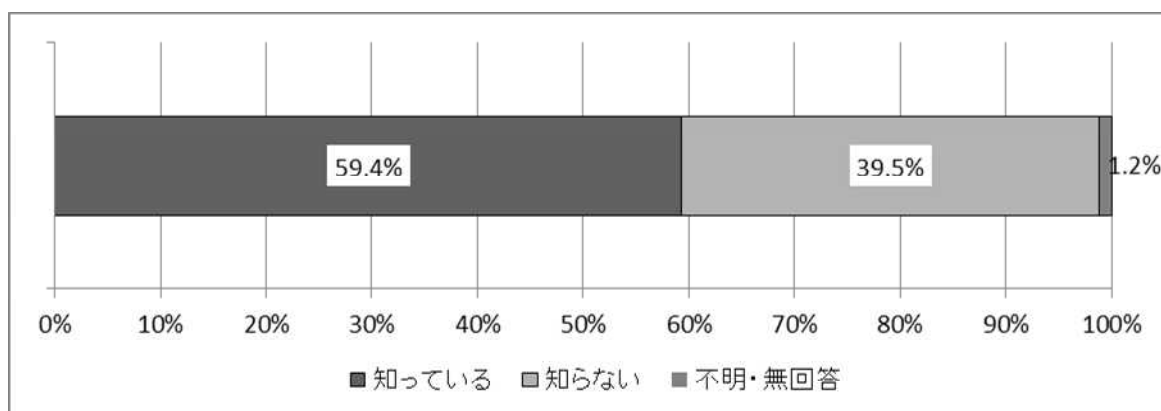
○ 力を入れてほしい施策



- ①結婚・出産・子育てまでの切れ目のない支援や社会全体で子どもを安全・安心に生み育てることができる環境づくり
- ② 子どもの育ちを支える滋賀ならではの教育環境づくり
- ③琵琶湖の経験を活かした産学官民連携による滋賀の水環境ビジネスの推進
- ④次世代の雇用につながる新たな産業の創出
- ⑤滋賀の産業を支える人材の育成や滋賀で働く優秀な人材確保の取組
- ⑥若者、女性、中高年者、障害者が滋賀で働き、活躍できるための取組
- ⑦豊かな自然など滋賀の魅力ある暮らしぶりを県外に広くPRするなどの移住施策
- ⑧ピワイチをはじめとする観光施策や首都圏での情報発信など滋賀の魅力の向上のための施策
- ⑨高齢者に地域の担い手として活躍してもらうための取組や健康長寿を実現するための取組
- ⑩再生可能エネルギーの活用など新しいエネルギー社会づくりや低炭素社会への転換
- ⑪2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据えた滋賀の文化の魅力発信やスポーツに親しむための環境づくり
- ⑫災害リスクに備えた安全・安心を実現するための県土づくり（インフラ整備）
- ⑬地域資源を活かした魅力的な仕事づくりや6次産業化（※1）の推進などによる力強い農林水産業、魅力ある農山漁村をつくるための取組
- ⑭地域・拠点間の連携確保や誰もが利用しやすい道路空間づくり
- ⑮鉄道・バス等の利便性向上など公共交通を使いやすいまちづくり
- ⑯安全で安心して暮らすための自治会など住民が中心となった防災や防犯対策の推進
- ⑰在来魚介類の回復や生態系の保全・再生など琵琶湖流域の保全・再生に向けた取組
- ⑱「世界農業遺産」（※2）の認定に向けた取組など、琵琶湖と共生してきた滋賀の農林水産業を健全な姿で次世代に引き継ぐ施策
- ⑲子育て世帯のための空き家リノベーション（※3）や公園・緑地の整備などゆとりある生活環境づくり
- ⑳全ての人がひとの絆と支え合いで安心して生活し、居場所と出番を持つことができる地域づくり

● 「びわ湖の日」の認知度

○ 「知っている」と答えた人の割合 59.4%



● 「びわ湖の日」を休日としようとするについて

○ 「賛成である」（「賛成である」と「どちらかといえば賛成である」の合計比率）と答えた人の割合 52.1%

